

令和 3 年度
自己評価・施設関係者評価報告書

特定非営利活動法人 三樹会

認定こども園 ほぷら

1 本園の教育保育目標

- ①未来の社会を支えていく心身共に健康で、かしこさをもったこどもを育てる
- ②よく見て、聞いて、考えるこどもに育てる
- ③人との関わりの中で愛情・信頼・人権を大切にする心を育てる

2 本園における園評価のねらい

3年目となる今年度も、職員それぞれが自己評価を行った。職員自身が自園を見る目を養い、環境の改善、教育保育内容方法の改善に自主的に取り組んでいくことで、スキルアップを図る。

また、外部の皆様にご意見をいただくための保護者アンケートも行った。その評価の結果を踏まえ、保育の資質向上に向けて園全体の課題を確認し、その改善に取り組んでいくことをねらいとしている。

3 令和3年度施設関係者評価

保護者アンケートは、長引くコロナ禍での保育であったということも視野に入れた内容にした。今年度もアンケート結果をもとに、保護者の想いを職員全員で話し合うことで成果や課題が見え活発な意見交換を行うことが出来た。その話し合いの中で、職員が自らを振り返り、職員一人一人の課題だけでなく、ぽぷらの保育集団としての課題・改善点を見つけることもでき、教育保育の振り返りをするよい機会となった。これらの結果を踏まえ、次年度も子どもたちの豊かな育ち、職員のスキルアップを目指す。

また、ぽぷら関係者評価委員会を設置し、職員の自己評価報告書をもとに協議を行い、意見・評価をいただくことができた。

保護者アンケート

令和3年11月18日

全園児の保護者を対象としたアンケートを実施し、その結果を公表する。

自己評価

令和3年12月22日

教職員が保護者アンケートの結果を踏まえ、評価シートをもとに、自らを振り返りながら自己評価を行った。

施設関係者委員会による評価

令和4年1月15日

出席委員：地域民生委員1名、在園保護者2名、卒園児保護者2名、（計5名）

職員の自己評価報告書と保護者アンケートをもとに協議した。

（施設関係者評価）

- ・自己評価の結果の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・重点的に取り組むことが必要な目標や計画、評価項目等が適切かどうか
- ・こども園運営の改善に向けた取組が適切かどうか

保護者アンケート

4 結果

園児数：35名 世帯数：29世帯 提出数：26世帯

1.はい 2.いいえ 3.その他

評価項目		1	2	3
1	園だよりやHp等で園の活動を家庭に伝えている。	25	1	0
2	園では乳幼児の発達をもとに、年齢に合った教育保育を提供している。	26	0	0
3	園では個人情報の保護に配慮している。	26	0	0
4	園では感染予防の取り組みや避難訓練などの防災活動を行っている。	26	0	0
5	園では職員が協力し合って、こどもの教育保育にあたっている。	26	0	0
6	こどもの発育や発達、子育てについて職員に相談しやすい。	26	0	0
7	職員は、愛情を持ってこどもと関わっていると感じる。	26	0	0
8	こどもは園に行くことを楽しみにしている。	25	0	1
9	こどもは園での遊びや活動を通して、お友達との関わりを体験している。	26	0	0
10	こどもは園行事に楽しんで参加している。 (今年度はコロナ対策をとった上での実施)	26	0	0
11	園の給食はこどもの健康や成長に役立っている。	26	0	0
12	円は地域の一員として積極的に子育て支援を行っている。	26	0	0

※数値は世帯数

自己評価

5 本年度重点的に取り組むことが必要な目標や計画

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、昨年度に引き続き、感染対策をしながらの保育となっている。「密」を避けられない環境の中、感染拡大の状況によっては、登園自粛を求められることも考えられる。まずは、こども達の保育の保障と職員が安心して過ごせる環境づくりを最優先とした。そして、職員一人一人が本園の教育保育理念・目標に向かって保育計画をたて、日々の保育を積み重ねていくこと、教育保育活動の充実・改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とした。

また、今年度の課題を重点項目とした保護者アンケートとともに、職員自身が自己評価を行い、評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施した。

6 評価項目の達成及び取り組み状況

評価：A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が不十分
D 取り組みが不十分である

【施設全体評価】

評価項目	取組状況	評価
幼稚園教育要領・保育所保育指針の精神を踏まえ、園の教育・保育理念・教育・保育方針にしたがい保育を編成している。	日々の保育の中での経験の積み重ねや、キャリアアップ研修等を通じて知識並びに技術、人間性を高めている。遊びの中でこどもが育つことを大切に保育が展開できるよう、組織体制の充実を図る。	A
教育・保育要領、教育・保育課程、子どもの実態などをもとに考えて計画を作成している。	こども達の現在の様子から、職員一人ひとりが、「何を経験させてどのように育てたいのか」ということをしっかり考えて月週案を作成している。	B
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	作成した月週案をもとに、計画に加筆、訂正を行いながら保育をし、担任だけでなく、担任外の職員とも相談ながら、こども一人ひとりと向き合っている。	A
学期ごとに各クラスの成果と課題を報告する。	各クラスの目標や課題を全職員が理解し、同じ方向に向かって機会をより多く見つけて周知していく。	A

子どもの良さを認めて評価しようとしている。	個々の子どもの発達段階を把握し、子どもの行動や言葉をありのままに受け止め、その心の奥にある思いを汲みとる。	A
安全面に配慮した環境づくりを心がけ、遊びの展開を工夫する。	安全面はもちろん、季節や年齢を考慮した遊びを通して、こども達が主体的、連続的に遊びを展開していけるよう環境を整える。	A
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	各家庭での生活環境を連絡ノートから把握し、保護者と連携を図り、職員も一緒に取り組む姿勢を示す。	A
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	毎週月曜日には職員会議の時間を設けて共通認識を図るようにしている。また、教材研究のための園内研修をする時間をつくる。	A
各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする。	コロナ禍により園外研修は減ったものの、キャリアアップ研修のように E-ラーニングで行われる研修もあるので、計画的に参加する。	A
各種マニュアルを熟読し、職員としての質の向上をはかる	年度初めにマニュアルを読み合わせ、意識統一を志している。	B
園だよりや学期ごとの学年別保護者会を通して認定こども園の情報を発信していく。	保護者が行事に多数参加することや園舎に入ることが少ないので、昨年以上に園だよりやブログ等で事務連絡等の情報発信をするようにしている。	A
教育目標や短期の課題と連鎖した評価項目を作成し、目標・実行・評価・改善のサイクルを確立する。	PDCA サイクルを常に念頭におき、職員間で、こどもの育ちにおける目的や評価の共通認識を図る。	A

施設全体の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	
施設全体の評価としては A（十分に達成されている）が多く、日々の様々な活動の中、こども達が人との関わりを通して、学びを見つけられるような質の高い教育保育を実践することができた。しかしながら長引くコロナ感染症の影響により、日々の保育や園行事を工夫して展開していくことにも制約が生じ、こどもたちの育ちに少なからず影響が出ていることは否めない。このような状況を踏まえ、引き続き、園の教育・保育理念をもとに、入園から小学校就学前までの発達と学びの連続性を捉えた全体的な計画を作成していきたい。 今年度も職員が施設評価の趣旨を理解し、振り返りと改善努力につなげることができたので、次年度も自己点検・自己評価に取り組んでいきたい。	

施設全体で今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教育・保育要領、教育保育課程、子どもの実態などをもとに計画を作成する。	職員一人一人がこどもの「今」を把握し、発達段階を踏まえた上で、連続的な保育を展開していくことが大切であるという共通認識を持ち、月週案をたてていくことを再確認する。コロナ感染症の影響にも配慮し、感染症対策にも引き続き取り組む。
教育目標や短期の課題と連鎖した評価項目を作成し、PDCAサイクルを確立する	Plan(計画)の段階で「今の子どもたちの育ちに基づいて計画を立てて、まずは動いてみる」という意識が大切であるので、やるべきことを行動レベルで明確にする。また、計画を立てても、評価する時間をとらずに行動し続けてしまうことがないようにする。

【保育教諭/自己評価】

常勤職員 7名 非常勤5名

評価：◎十分達成されている ○達成されている △課題あり ×要改善

※該当外は除く

項目	評価内容	◎	○	△	×	保育教諭の取り組み状況（一部抜粋）
日常業務について	送迎時の対応	4	8	0	0	・時間に追われ、清掃が後回しになってしまったことがあった。 ・送迎時は笑顔で家庭の様子を聞き、園での様子をわかりやすく伝えた。 ・ノートには健康状態も記すようにした。
	連絡ノートの記入	6	5	1	0	
	保育内容の向上	2	7	3	0	
	環境整備（片付け・清掃）	6	4	2	0	
園児に関する業務	基本的生活習慣の確立	5	7	0	0	・個々の月齢に合わせ、言葉掛けをし、自信をつけていけるようにした。 ・感染予防のため、手洗いの大切さを伝えた。 ・家庭との連携を大切にした。
	こどもとのかかわり方	5	7	1	0	
	こどもの情報（事実）把握	4	7	1	0	
保育計画の作成と記録	月週案やクラスの記録	3	4	0	0	・身体の発達を促す活動を取り入れた。 ・季節に合わせ、その時期を楽しめる遊びを心がけた。 ・異年齢が関わり合える計画を取り入れるようにした。
	発達段階や健康状態に配慮した保育計画	4	3	0	0	

事故対応	事故防止のために 環境の配慮や保育 の工夫	5	6	1	0	・散歩時はその日、その時で状況が違 うため、常に危険箇所の確認をし た。 ・こどもの動きを事前に予測した。
	事故対応や連絡な ど	7	4	1	0	
コミュニケーション	職員同士の連携	5	6	1	0	・こどもの体調や状況を伝え合い、共 通認識を図った。 ・保護者や来園者にも丁寧な対応を心 がけた。
	保護者対応	4	6	2	0	
	社会的マナーなど	5	7	0	0	
環境整備	園行事の計画立案 と実施	3	7	2	0	・感染症対策に考慮し、行事の計画・ 変更を行った。 ・見通しを持って計画を作成するよう にしている。
		3	9	0	0	
	行事の連携協力な ど					

職員（保育教諭）の今後の業務上の目標 ※一部抜粋

	何を	どのように
職員集団の中での目標	・月末の反省や翌月の事柄について ・自分の意見も出し合い、より向上 できる関係づくり ・自分が何をすべきか、何ができ るのかを考えて行動する ・季節ごとの遊びや行事の大切さを 理解し、職員間で協力し合ってい けるように心がける。	→月1～2回程度、こどもの育 ちあいや、クラス間での反 省、月案について話し合 い、保育を創っていく。 →相手の意見を丁寧に聞き取 り、想いをくみ取る。 →広い視野を持ち、他の職員 やこどもの様子を把握し、 動く。 →歌を覚えたり、遊び方を他 の職員から学んだり、疑問 に感じたことを発言できる ようにしていく。
自分が目標にすること	・発達段階にあった保育、つながり のある保育を行えるように保育計 画の作成をする。 ・キャリアアップ研修等によって専 門的な知識をさらに学んで、それ を活かして保育にあたる。 ・年間を通じて計画を持ち、どのよ うに保育を展開していくのかを具 体的に決める。	→他の職員の保育の様子や支 援の仕方を参考にし、悩ん だ際は相談し、解決に努め る。 →研修で学んだことなどを日 頃から振り返る事を心がけ る。 →こどもの様子を把握し、必 要なことを知り、職員と話し 合いながら保育を進める。

	・こどもとの関わり方、季節の遊びや歌、楽しみ方を習得し、取り入れていく。 ・こども一人ひとりの育ち合い	→まわりの職員の動きを参考にし、自分に足りないものを積極的に取り入れる。 →月ごとの反省だけでなく、こども達一人ひとりの育ちで難しいところを細かくどう対処していけばよいかを考えるために勉強する。
--	--	---

職員（保育教諭）の自己評価による具体的な目標や計画の総合的な評価結果
今年度も職員一人一人が学校評価の主旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。また、保育の振り返りを行うことで自分自身の課題も明確となり、改めて自己評価の大切さを感じた。 昨年度の評価結果からは、職員間の連携を図っていきたいという意見が多く出ていた。この結果を受け、今年度の保育では職員間の連携を大切にすることを心がけることができていた。これは自己評価の取り組みの大きな成果である。まだまだ課題はあるものの、チーム保育を展開するためには、保育理念の共通認識を持ち、日々の保育にあたることの必要性を一人一人が認識することが強固な組織づくりにつながると感じる。 本年度の課題として多く見受けられたのが、評価項目の中にもあるように、こども達の現在の様子から、職員一人ひとりが、「何を経験させてどのように育てたいのか」ということをしっかり考えて月週案を作成することである。こどもたちの豊かな育ちにつながるように計画を立てて、充実した保育を展開していけるように今後も努めていきたい。職員同士が話し合い、子どもの主体性を大事に乳児期から温かい思いをもち、丁寧なかかわりをしていく。 今後もより良い保育の実現に向けて保育者、職員が自己評価の趣旨を理解し、振り返りと改善努力につなげることができるよう自己点検・自己評価に取り組んでいきたい。

【調理担当/自己評価】

常勤職員 1名 非常勤 1名

評価：◎十分達成されている ○達成されている △課題あり ×要改善

項目	評価内容	◎	○	△	×	調理担当の取り組み状況 (一部抜粋)
食育計画について	・保育理念に基づいた食育計画を作成している。 ・食育計画に基づいた食事の提供をしている。	1 0	1 2	0 0	0 0	・食材の宅配を増やすことで食材の質を高められた。 ・新しい献立を考えられなかった。

業 務 の 役割	・ こどもの食事状況を見ている。 ・ 保育内容を理解し、献立作成や食事提供を行っている。 ・ 喫食状況、残食などの評価を踏まえて調理を工夫している。	1	0	1	0	・ 感染症予防のため、園児と食事をしていない。 ・ 旬のものを大切にする。 ・ 残食が多い園児の適切な量や形状の問題を踏まえ、調理過程や盛り付けを工夫している。
食 事 の 提供	・ 年齢や個人差に応じた食事の提供をしている。 ・ アレルギーに配慮した食事提供をしている。	2	0	0	0	・ 離乳食は調味料や調理方法を変えている。 ・ 軽いアレルギー反応を示したこどもがいた場合、保護者に報告し、その後の様子を聞いている。
衛生 管理	・ 調理のための衛生管理をしている。 ・ 衛生的な食事の提供をしている。	2	0	0	0	・ こまめな消毒を行い、調理器具や食器を衛生的に管理するように努めている。
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	・ 職員同士の連携がとれている。 ・ 保護者にレシピや調理方法を知らせる等、保護者が家庭でもできるような具体的な情報提供を行っている。	0	0	2	0	・ 新入園児の情報の伝達が遅いので対応が遅れる。 ・ 献立表でレシピを紹介している。

職員（調理担当）の今後の業務上の目標 ※一部抜粋

	何を	どのように
職員集団の中での目標	・ 保育職員と連携をとる	→保育士とコミュニケーションをとり、家庭での食事の様子を聞く。 →こどものアレルギー情報等漏れないようにする。
自分が目標にすること	・ 新メニューの提案 ・ 感染症対策	→日々考案していく。 →こまめな清掃や消毒、手袋の使用、マスクの徹底をする。

職員（調理担当）の自己評価による具体的な目標や計画の総合的な評価結果
昨年度同様に評価の中で目立ったものは、新メニューの提案である。昨年度も課題として挙げられていたが、保育現場同様、日々の業務に追われ、調理員同士が話し合って考案していくのは難しいのが現状である。しかしながら、自分自身の仕事を振り返り、課題に意識を向けることは重要なことであり、今後改善方法を見出していく。日々の業務に追われるからこそ、調理担当職員としての自己評価も大切である。 また今回の結果では、職員との連携に課題があることがわかった。新園舎となり、今までとは違う環境であるが、園の大切にしている３本柱の「遊ぶ・食べる・眠る」という中の給食の重要な位置づけは変わらない。こどもの発達を促す上で、アレルギー情報だけでなく、こどもたちの健康状態、給食中の様子が伝わっていないという結果から、保育と調理の職員間の話し合いの時間を設けるなど工夫が必要だと考えられる。また、コロナ禍である今、こどもの豊かな心と身体を育てるためにも、保護者への「食」の情報発信も心がけ、「食」への関心を高めていきたい。 衛生管理では、感染症拡大の影響も受け、食事提供に今まで以上に配慮が必要である。今後も安全でおいしい給食が提供できるように努めていく。

施設関係者評価

7 施設関係者評価委員会の意見と評価

新たに編成されたぽぷら関係者評価委員会では、職員の自己評価とともに、保護者アンケートの結果から見えた保護者の想いや改善していく点について話し合いが行われた。今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、登園自粛措置や各行事が縮小になった。そのような中で、職員たちが状況判断をしっかり行いその活動にあわせた方法で、こどもたちの保育・教育が行い、今年度も概ね良好な園運営がなされているとの評価を受けた。また今年度も、保育の質の向上を図り、こども達の成長の手助けをしてもらいたいというお言葉をいただいた。今年度も職員一人一人の課題を園全体の課題として考え、今後のこども園運営に反映させていきたい。